

自分らしく輝く

Free Style

しみずなおみ
清水直美さん

(田原市男女共同参画推進懇話会 公募委員)

田原市男女共同参画推進懇話会委員に応募された清水さんは、「ヒッポファミリークラブ」に所属し、いろいろな国の言葉を楽しむ活動をしています。昨年度は「愛知県男女共同参画人材育成セミナー」を受講し、大きく視野が広がったといいます。



Q ヒッポファミリークラブの活動について教えてください。

A チャオ!ニーハオ!アニョハセヨ~!ヒッポファミリークラブでは「赤ちゃんはどのようにして、自然と言葉と話せるようになるのか」に着目し、さまざまな世代の仲間と、多言語が自然と育まれる環境づくりをしています。子どもたちが言葉遊びをするように、大人も子どもと一緒に多言語を楽しんでいます。

Q 「愛知県男女共同参画人材育成セミナー」を受講して学んだことは?

A 講義の中で出てきた、子どもが3歳になるまでは母親が育児に専念することが望ましいという「3歳児神話」について、自分自身の価値観が大きく変わりました。私は長く育児に関わる仕事をしていましたが、この考え方には何の疑いもありませんでした。しかし、「3歳児神話」は、男は外で懸命に働き、女は家事や育児に専念することを推奨し、戦後の経済成長を促進するため取り入れられたものであったということです。厚生労働省は、1998年の厚生白書で「3歳児神話」には合理的な根拠はないと否定しています。

私はわが家にホームステイしたモンゴル出身の青年ビルの話が忘れられません。彼は生後3カ月から数年間、両親がロシアの大学で勉強のため不在となり、祖父母たちに育てられました。ビルはうれしそうに「ぼくはいろんな人に育ててもらったおかげで、誰とでも楽しく話せるようになったんだ。でも弟は両親にしか育てられていなく

て、人見知りで・・・」と言うのです。私は「いろんな人に愛情を注がれて育てられるのも素敵なものだな」と思い、今までの価値観がひっくり返り、新しい世界が開けた気がしました。

Q 男女共同参画推進懇話会に参加して感じたことは?

A 男女共同参画は日常生活のどんなことにも関連するため、会議の中でもさまざまな方向に議論が飛びます。それらの多くの課題にどのように向き合って話し合い、解決策を見つけ出すことが懇話会の役目なのかなと感じました。

Q 日ごろ取り組んでいる「男女共同参画」は?

A 60歳で退職した夫に少しでも台所に慣れてもらい、料理もできるようにと声掛けをしています。ただいま一緒に特訓中!今までに経験のないことをしてもらおうことでお互いの理解につながれば良いなと思っています。

Q 市に「男女共同参画」の視点から望むことは?

A 今は共働きの時代となり、家事や育児への父親の意識や関わり方も変化しつつありますが、まだまだ母親の負担が大きいのが現状ではないでしょうか。市が行った市民アンケート調査でも、家事や育児を主に担当するのは8割以上が女性であるという結果が出ています。これからの家事や育児について、みんなで一緒に考え、新しい視点が持てるような場づくりが必要だと思っています。

Q 男女共同参画推進懇話会委員として、市民の皆さんに伝えたいことは?

A 「〇〇が普通だ、〇〇するのが当たり前だ」というのは本当に常識ですか?真実ですか?固定観念を取り払い、柔軟に考えることで、きっと新しい世界が見えてくるでしょう。さまざまな国や世代の人たちと心を開いて交流し、お互いを認め合えるような社会、「みんなが自分らしく輝けるまち・たはら」を目指していきましょう。



▲ホームステイ先(スペイン)のファミリーへ日本の料理を振る舞いました